



とのまるくん  
(殿ダムイメージキャラクター)

因幡のくにの夢づくり

# とのまる通信

第4号  
2001・12・1

発行：国土交通省中国地方整備局 殿ダム工事事務所 鳥取県岩美郡国府町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612

## ドングリで

## わたしたちの 森を作るぞ

「あ！ドングリみつけた！」  
 「私のこんなに大きいで！」  
 「あっーあそこへビがおるうー！」  
 ワア〜。

国府町の<sup>おおかや</sup>大茅・<sup>せいぎ</sup>成器・谷小学校の  
 一、二年生がドングリ拾いを行い、  
 各学校で植え付けや作業を行った。  
 これは“殿ダム環境検討会”の  
 委員の方からの提案で実現したもの  
 ン？このお固い名前の会は何？  
 ドングリと小学生と殿ダム？  
 いったい何をするといいのだろうか？  
 パワーあふれる子供たちに同行してみた。



谷小学校の1年生。



## 秋みつけ隊

10月29日、大茅・成器小学校の1、2年生が殿ダム工事事務所のマイクロバスにゆられ、酒賀神社へと向った。

この日は小雨が降るあいにくの天気だったが、バスの中はミニ遠足気分。成器小学校は毎年行う“秋みつけ”という総合学習の一環として参加。現地につくや否や、子供たちは持ってきたビニール袋にドングリや色づいた葉など、思いの秋を詰め込んでいった。

袋がいっぱいになった頃、植物に詳しい田中昭彦さんによるミニ学



習会が開かれ、子供たちはより一層植物についての理解を深めているようだった。



ドングリや紅葉した葉をちりばめて作ったはっぴ。

## 3校が参加

11月22日には谷小学校の1年生もドングリの植え付けに参加！ドングリの種類や成長の過程を絵本で学習した後、植え付けに挑戦し、残ったドングリはバッチャやネックレスに加工するなど、ドングリの工作も楽しんだ。



## ネズミに注意！

ドングリ拾いから3日経ち…さあ！植え付け作業！みんなドングリを拾った事はあるけれど、植えるのは初めて！殿ダム建設安全対策協議会(殿ダム工事関係者の連絡組織)により提供されたプランターや土を使い、景観推



小雨が降り少し肌寒かったが、夢中でドングリや葉っぱを拾い、頬を染める大茅・成器小学校の1・2年生。

し、元の澄んだ水に近い状態に戻してから川に流すようにしています。」と、ここでも周辺環境に配慮した工事が行われていた。

それは…作業時に周辺環境に配慮するなどの注意点が事細かく書かれている“殿ダムエコアップ現場手帳”を工事に携わる関係者の方に読んでもらっているから。

実際、現場に行くとかかなりの数のトラックが往来しているが、一般道路に泥や砂が落ちておらず、気持ちいい。道路一つをとっても、現場で働く方々の配慮の様子が伺える。



このように殿ダムは専門家の人と現場の人、そして地域の人たちが一緒になって理想のダム作りの第一歩を踏み出しています! 今後は殿ダムを利用する人達とも交流をしていきたいですね!

## 来春新設される学校に 心踊る児童たち

この企画に参加した大茅・成器・谷小学校は、それぞれ128年という長い歴史をもつ。しかし、今年度で廃校となり、来年4月より3校が統合して「国府東小学校」が新設される。それぞれどんな特長をもつ学校だったのか、各校長先生にお話を伺った。

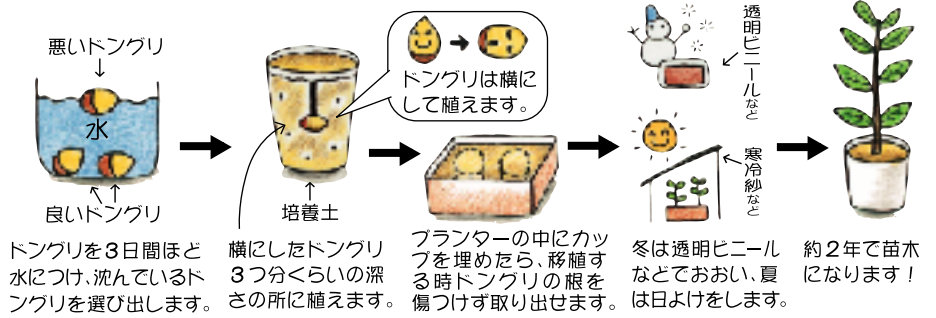
おおがや  
**大茅小学校**  
河口尚史校長先生

ピーク時  
昭和22・33年  
215名  
現在の  
全校児童数  
13名

「うちは全校児童合わせて13名! 少人数ですから、1人1人にあった学習指導を行っています。時には外で授業したり、地域に出かけたり…春には全校児童が集まって、桜の木の下で給食を食べたりと、アットホームな学校です。また、ここは自然豊かで地域の人々も温かい! 教師だけでなく、地域全体で子供を育ててきた学校といえるでしょう。」



## ドングリを育ててみよう!



## 殿ダム環境検討会ってな~に?

殿ダム環境検討会? いかにもお固く、難しそうな事を議論する会と思いきや、この度のドングリ拾い&植え付けの企画や「殿ダムエコアップ現場手帳」を発案したのもこの会です。いったいどんな会なのか、委員長の道上正規先生にお話を伺いました。

「ダムは土木構造物の中で1番大きなもので、それゆえ、たくさん水をためる事ができ、殿ダムの場合洪水を防いだり水を供給するなど、多くの人々の生活に役立つ物です。しかしその反面、木を切ったり土を掘ったりするため、周辺の環境を変えているのも事実。今ある状態を変えるというのは、100年後の環境にどのような影響を与えるか、現段階では図り知れません。」



鳥取大学の道上正規学長

そこで、できるだけ元の環境に近い状態に戻せるよう、工事の過程で地域の自然環境の保全に努めながら作業を行う事が重要と考えました。そして、植物、鳥類、魚類など生物に関係する専門家や、水質や河川工学を専門とする人たちが集まり、どういった点に配慮したらいいのか、私たちに何ができるのかなどを考え、実行しているのが“殿ダム環境検討会”というわけです。」



この度、植えたドングリの一部は、国府東小学校が新設された折、記念植樹としても使っていただく予定です。

せいぎ  
**成器小学校**  
野津俊哲校長先生

ピーク時  
昭和22年  
263名  
現在の  
全校児童数  
44名

「毎年テーマを絞り込んだ教育を行っています。今年は“文化の継承”と“地域への発信”をテーマに進めています。地域の人からふるりの良さを学び、学校からは、伝統芸能である“成器子ども太鼓”を校区や町内行事の折に披露して、継承された文化の音を地域へ発信しています。」

まもなく廃校となりますが、ふるりに誇りをもって、巣立って欲しいと願っています。」



たに  
**谷小学校**  
田中道春校長先生

ピーク時  
昭和34年  
508名  
現在の  
全校児童数  
126名

「うちの児童は、純朴そのもの! 落ち着きがあり、やさしい子が多いです。その基盤となっているのが、代々受け継がれてきた“同和教育”にあるように思います。」

また、もう1つの大きな特長に、伝統芸能である“傘踊り”を4年生以上は全員踊れるよう伝承しています。大茅小学校は“雨滝音頭”、成器小学校は“成器子ども太鼓”3校が統合し、新たな文化が芽生えるといいですね!



ドングリで作ったハリネズミ!



ほくがこれ全部植えました!

進委員として町の緑化に取り組む田中静雄さんご指導のもと、ごこない手つきで、やさしくドングリを植え、水やりを行った。そして最後に育てる時の注意点を聞いた。

「一番気をつけなくてはいけない事は何かと思う?」(田中さん)

「水やり!」(生徒)

「日の当たる所に置く事!」(生徒)

「それも大事だけど…植えたドングリをネズミに食べられないように守る事だよ!」(田中さん)

「え〜〜!」と、意外な注意点に生徒全員驚いた様子。植えたドングリは来年の春まで各学校で見守る事となった。

どこに植えるのさあ〜?



どのくらいお水やればいい?



# 理想の殿ダムを考える

## いろんな専門家の人達と

ところでこの企画、いったいどういう内容かと言うと…地元の小学生に採取、育ててもらったドングリを、殿ダム工事によりできたのり面(盛り土や切り取りなどでできた人工的な斜面)に移植し、この木が育つことにより、工事による周辺環

境への影響をできるだけ少なくしようというもの。

考えたのは…動植物や環境全般にわたり知識豊富な方を委員とした“殿ダム環境検討会”(詳しくは次ページにて紹介)の委員の方々。

このメンバーで、動植物全般に詳しい清末忠人さんと、鳥取県東部地区の“絶滅が心配される植物”の調査責任者である田中昭彦さんにお話を伺った。



ドングリを使った工作に挑戦!

## 清末忠人さんのお話

「ダムを作る時、木を伐採しますが、切りっぱなしではいけません。なぜなら、1つ例を挙げると…ダムができたところには大きな湖ができ、水鳥たちがやってきます。しかし、水鳥の憩う木陰や鳥の食べ物である昆虫や木の実などがなければ、すぐに飛び去ってしまいます。そこで、広葉樹の森を作ってはどうかと考えたのです。」

また、地元の子供たちにドングリ拾いと植え付けしてもらったのは、自分とドングリと背比べしながら成長し、豊かな森ができていく過程を見守ってほしいからです。興味と感心を持続させ、自分たちが作った“森に囲まれたダム”を守り伝えてほしいものです。」



ほら! 上手に埋めたで!

大茅小学校の2年生。

## 田中昭彦さんのお話

「鳥取県東部の絶滅が心配される植物を調査していますが、毎年数種類の植物が姿を消しています。殿ダム工事でも木を伐採し、土を掘り返しているの、植物は失われますが、事前の調査により希少種と判断された植物は、厳重に保護した上で移植してもらおうよう、アドバイスしています。」

壊した自然は元通りにはなりません、できるだけ元あった状態に近づけたいと願い、委員みんなで知恵を絞っています。」

# 工事のおじさんも環境の勉強に励む



殿ダムエコアップ現場手帳

「現在付け替え道路を作るため木を伐採していますが、その際、慎重に種類を調べ、貴重な木がないか確認しながら作業をしています。」と語る中信・正田JVの中村さん。

また、護岸工事を行っているやまこ建設の中村さんは、

「川を掘ると泥水が発生し、川をすみかとするものたちの環境を悪くしてしまうのです。そこで、この度“濁水浄化装置”という大型機械を設置

## ドングリは食べられる?!

茹でてアクを抜けば、ほとんど食べられるといわれるドングリ。淀江町にある“白凰の里”にはドングリを使った珍しい特産品がめじろおし!



どんな木になるか楽しみだあ〜!

◀ 白凰の里で販売されているドングリを使った特産品。中でも、どんぐりソフトやどんぐり餅、どんぐり焼酎は人気!



お問い合わせ先/白凰の里 TEL:0859-56-6798



成器小学校2年生の皆さん。

山本 隆さん

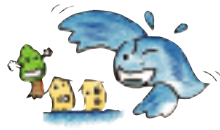


「移転の際にはいろんな方にお世話になり、ありがとうございました!」と語る山本隆さん。

殿ダムはどんな目的で造られるのでしょうか?

① 洪水調節

(洪水の被害が少なくなり、より安心して暮らせるようになります)

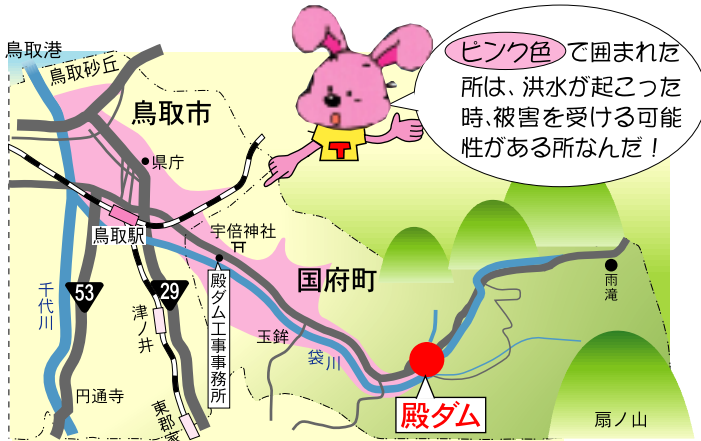


千代川は昔から、何度も洪水に見舞われ、家屋や商店が流されたり、ひどい時には人命をも奪う被害が起きていました。

古くは、江戸時代の袋川付替えが現在の旧袋川となり、昭和初期には、現在の袋川となる新袋川の大規模な開削が行われるなど、袋川の洪水対策と鳥取市の発展は切り離せないものでした。

ところが、近年になっても洪水とは無縁ではなく、昭和51年、54年とたて続けに起こった洪水は、鳥取市に大きな被害を与えました。

殿ダムは、この様な被害を再び被らないために計画されたもので、ダムにより袋川の洪水を小さくして下流に流すことで、鳥取市などの安全な暮らしが、更に高まることとなります。



ピンク色で囲まれた所は、洪水が起こった時、被害を受ける可能性がある所なんだ!

② 河川環境の保全等

(渇水による被害を小さくします)



日照りが続き、袋川を流れる水の量が少なくなった時に、ダムに貯めておいた水を川に流すことで、袋川の水を利用している、田んぼや畑などの渇水被害を軽減するほか、川に住む生物たちがすみかを奪われることを少なくするなど、河川環境を守ります。

③ 都市用水の供給

(鳥取市の発展のために必要な水を確保します)

鳥取市の水道用水として日量2万m<sup>3</sup>、鳥取県企業局の工業用水として日量3万m<sup>3</sup>の取水ができるよう、必要な時にダムに貯めた水を補給します。

④ 発電

(クリーンエネルギーである水力発電を行います)

ダムから放流する水の力を使って発電を行います。

このように主に4つの働きがあります。もっと詳しく知りたい方は、お気軽にお電話か殿ダム工事事務所にお越しください!

隆さんで4代めとなる山本家は、大正13年生まれのお父さん(勝さん)を筆頭に6人家族。楠城に家、山、田んぼ、そしてお墓があったが、家のみ移転対象となり、2年前、国府町法花寺に移転された。

チャレンジ精神旺盛な隆さんは、家建てる際のめんどろな書類の手続きを、専門家に任せる事なく、全て自ら処理された。また、これからの人生を専業農家でやっていきたい!と、移転を機に、年中収穫でき、かつ、人々が健康になる(高い健康効果が望まれる)マイタケ栽培を決意。以後これも独学で勉強し、他県にも視察に行き、家の建設と同時にマイタケ工場を立ち上げた。現在、妻の美也子さんと共に日々生産に励みつつ、マイタケを使ったおいしい料理や、新商品開発などにも取り組んでおられる。

77歳の勝さんは、毎日軽トラに乗り、楠城の山仕事に出かけておられる。以前はお昼になると家に戻り昼食をとっていたが、移転後、山から家まで片道約12kmとなったため、今はお弁当持参の日々。

「この2年間、生活再建が大変でした。現在も楠城、法花寺の二重生活ですが、全て人生勉強!いろんな方にも協力していただき、感謝しています!この年になって、改めて地域の皆さんに活かされている事を実感しています。」と軽快に語られた。

家のみ移転対象となった山本家。以前は山や田んぼ、お墓に歩いて行ける距離だったが、今は車で片道約20分かかる。生活環境全てを移転できない分、移転後も、ご苦労をされている事を忘れずにいたいものです。



お待ちしております!

お問い合わせ&お便りの宛先

国土交通省 殿ダム工事事務所

とのまる通信編集部 宛

〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1221  
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612



自然保護の一環として再生紙を使用しています。